

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	進藤不動産鑑定士事務所
世田谷(都) - 22	東京都	区部第 7	氏名	不動産鑑定士 進藤 俊二

鑑定評価額	118,000,000 円	1 ㎡当たりの価格	714,000 円 / ㎡
-------	---------------	-----------	---------------

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 6 年 7 月 1 日	(4)鑑定評価日	令和 6 年 7 月 3 日	(6)路線価	[ 令和 6 年1月]	560,000 円 / ㎡
(2)実地調査日	令和 6 年 6 月 25 日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	倍
					倍率種別	
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		世田谷区瀬田四丁目 3 3 4 番 1 7 外 「瀬田 4 - 3 5 - 9」				地積 (㎡)	( 165 )	法令上の規制等	
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給 処理施設状況	主要な交通施設との 接近の状況		1 低専 (50,100) 準防 高度(1種) (その他)	
	1 : 1	住宅 W 2F 1B	中規模一般住宅が多い閑 静な住宅地域		西6 m 区道	水道、 ガス、 下水	用賀1.1 km		(60,100)	
(2) 近隣 地域	範囲	東 30 m、西 0 m、南 50 m、北 15 m				標準的使用	低層住宅地			
	標準的画地の形状等		間口 約 13 m、奥行 約 13 m、規模 165 ㎡程度、				形状 正方形			
	地域的特性	特記事項	特記すべき事項はない		街路 基準方位北 6 m 区道	交通施設	用賀駅 南西方1.1 km	法令 規制	1 低専 (60,100) 準防 高度(1種)	
	地域要因の将来予測	一般住宅を主とした住宅地域として概ね熟成している。中規模以上の画地には細分化も見られるが、地域に特段の変動要因等はなく、当面は現状の利用形態のまま推移するものと推定される。								
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地						(4) 対象基準地の 個別的要因	方位		+2.0
(5) 鑑定評価の手法 の適用	取引事例比較法		比準価格 735,000 円 / ㎡							
	収益還元法		収益価格 364,000 円 / ㎡							
	原価法		積算価格 / 円 / ㎡							
	開発法		開発法による価格 / 円 / ㎡							
(6) 市場の特性	同一需給圏は、東急田園都市線の各駅を最寄りとした圏域で、中小規模一般住宅、低層共同住宅等が見られる住宅地域である。主たる需要者は、比較的世帯年収が高い一次取得者層、買替層、また再販目的の不動産業者や分譲業者等。駅接近性で劣る面があるが、区画や街路条件等から居住環境は良好で、安定的な需要が認められる。市場の中心となる価格帯は、土地 3 0 坪程度で 7 千万円台、細分化された新築住宅で 8 千万円 ~ 1 億円前後と把握した。									
(7) 試算価格の調整・ 検証及び鑑定評価 額の決定の理由	最寄駅へは比較的距离があるが、良好な居住環境が形成された住宅地域である。周辺には賃貸用の共同住宅も存するが、行政的条件等から土地の経済価値に見合った賃料収入が得難いこと等から収益価格は低位に試算された。取引は、居住の快適性を重視する自用目的が中心と把握される。したがって市場性を反映する比準価格を重視すべきと判断し、収益価格を比較考量し、共通地点である地価公示の代表標準地との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。									
(8) 公規価 示価格 と格し をた	代表標準地 標準地番号 世田谷	標準地 - 20	時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の規準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標準 街路 0.0	地 街路 0.0
	公示価格 695,000 円 / ㎡	[102.7] 100	100	100	[102.0] 100	714,000	準 交通 0.0		域 交通 0.0	
									化 環境 0.0	要 環境 0.0
(9) 指か 定ら 基の 準検 地討	指定基準地番号		時点 修正	標準化 補正	地域要 因の比 較	個別的要 因の比 較	対象基準地 の比準価格 (円 / ㎡)	内 訳	補 画地 +2.0	因 行政 0.0
	前年指定基準地の価格		[ ] 100	100	100	[ ] 100			正 行政 0.0	その他 0.0
									その他 0.0	
(10) 対年ら 象標の 基準検 準価討 地格の 等前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 677,000 円 / ㎡				価 変 動 形 成 状 況 要 因 の	〔一般的 要因〕	景気は、一部足踏みもみられるが、緩やかな回復傾向にある、区内の不動産需要は根強く、不動産取引は堅調に推移している。			
	- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点) である場合の検討					〔地域 要因〕	やや駅距離があるが、居住環境は良好な住宅地域である。供給が限定的であるが需要は根強く、地価は強含みで推移している。			
	代表標準地 標準地番号 世田谷	標準地 - 20	公示価格 695,000 円 / ㎡			〔個別的要 因〕	個別的要因に変動はない。			
	変動率	年間 +5.5 %	半年間 +2.7 %							